

ウオッチ！ 旭山動物園

①
坂東副園長と紙さんが対談

「ありのままの命の大切さを伝えたい」と頑張っている北海道旭川市の旭山動物園。全国からのお客様で毎日いっぱいです。坂東元（ばんどう・げん）副園長を日本共産党の紙智子（かみ・ともこ）参院議員が訪ね、動物園を回りながら語り合いました。



坂東副園長（左）の案内で、水中トンネルからペンギンを見る紙さん

かみ・ともこ 北海道札幌市出身。二〇〇一年参議院選挙当選。参院農林水産委員、予算委員として活躍。農業、漁業の実態調査で全国をかける。

ばんどう・げん 北海道旭川市出身。旭山動物園副園長、獣医。一九八六年から旭山動物園に勤務。数々の園施設のデザインを担当。著書に『動物と向きあって生きる』など。

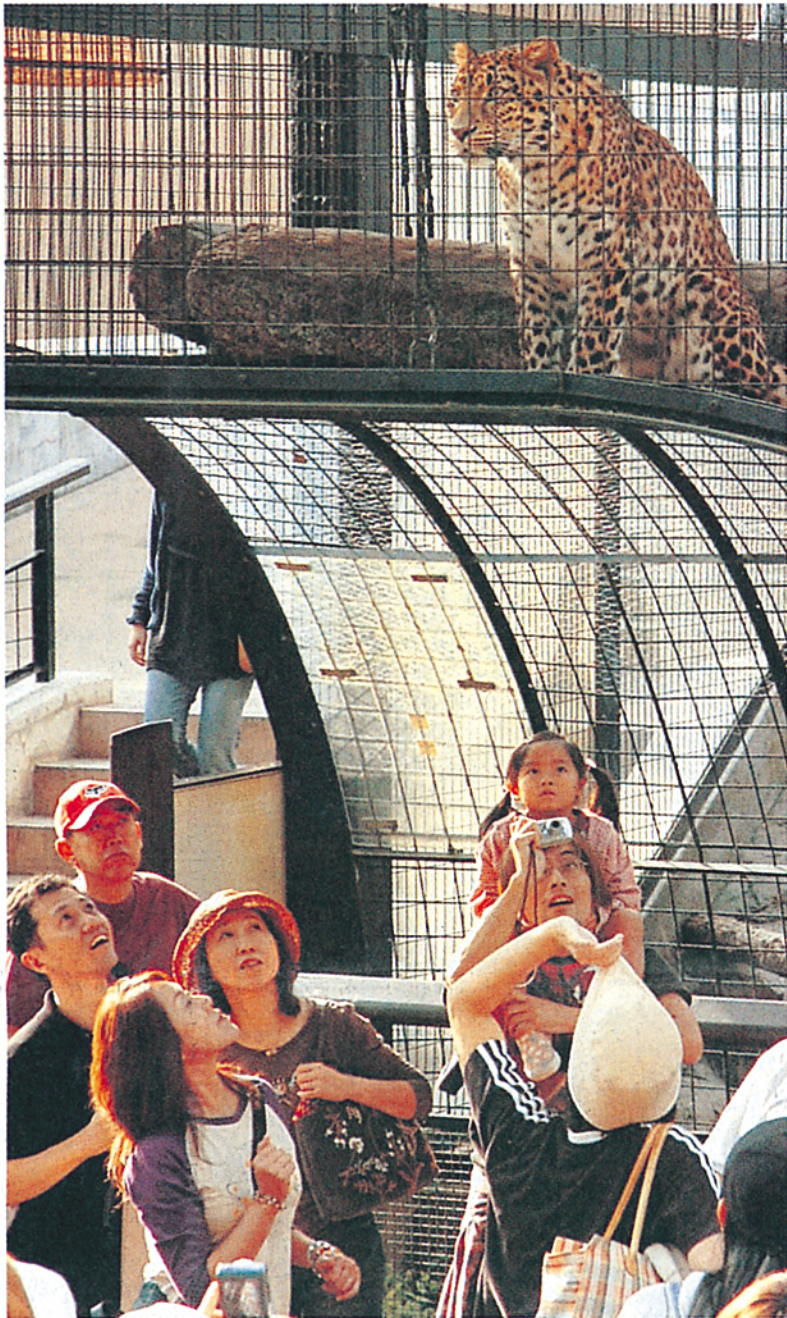
紙智子・参院議員 旭山動物園に来るのをとても楽しみにしていました。きょうもとても混んでいますね。動物園に来る人は見る時間がとても長いと聞きました。

坂東元・副園長 道外の人もたくさん来ていたいて、昨年の入場者数（二百六万人余）は十月三日に超えました。修学旅行やツアー客など三時間から五時間かけて回っています。二日間続けてこられる方もいますよ。

紙 その気持ちわかりますね。ホッキョクグマのダイビングの瞬間は迫力があるって驚きました。水中でこんなに毛並みがきれいなのかとずっと見ていたい気持ちになります。

坂東 私もお客さんにじっくり見てほしいのです。本当は、ペンギンを三百六十度観察できる水中トンネル

チンパンジーがお客さんを見て「？」



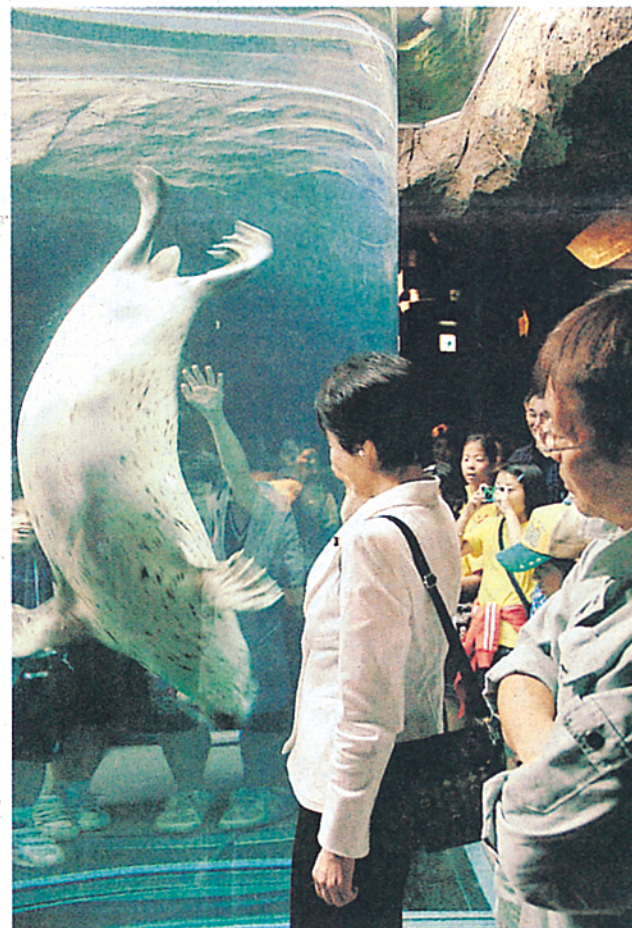
ヒョウを下からのぞきこむ人たち

紙 この「チンパンジーの森」は八月に新しくできたものです。すごく高くて、遊び心がいっぱい仕掛けですね。

坂東 森林をイメージして作りました。見た目ではなく木の機能を持った構造物という意味です。大型の予算は一段落しそうなので、ひとつの集大成だと思っています。高さは十六メートルあり、複雑で、不安定な構造物なんです。チンパンジーの本来の姿を見てほしい。

坂東 これは空中トンネルに入りこめるんです。

ヒョウが人より高い所に



垂直に立つ筒の中を、客の顔を見ながら行き交うアザラシに、感動して見る紙さん（左）と、案内する坂東副園長（右）

紙 「チンパンジーの森」はお客さんが透明のトンネルを通して、「森」に入っていくんですね。チンパンジーがとても近くで見られる。

坂東 これです。チンパンジーがお客さんを見て「なんだ？」とトンネルをバンバンたたいている。僕はパンダとかラッコとか珍しい動物は飼っていない。どこの動物園にもいる動物を「野生動物」として見せたい。その思いが伝わってきます。

命そのものを感じてほしい

紙 たしかに私が見たところあるヒョウは平面のオリを行ったり来たりしていました。ここはお客さんがヒョウの下にいる格好になっていますね。

坂東 ヒョウが人間よりも優位になっているからストレスを感じにくいのです。他の動物も木の上にいる動物なら木の上にいるように、高い木の上の葉を食べるキリンなどは高いところに餌を置くようにしています。

坂東 紙さんはこんなにヒョウをじっくり見たことがありますか。この「もうじゅう館」では特に珍しい動物がいるわけではありませんが、今まで飼育していた動物の「見せ方」を変えたのです。たとえばヒョウは木の上にいることが多い。三次元的に利用するのにしたのです。

紙 動物園の果たす役割も大きいですね。

坂東 動物園は動物のとりあえずの避難場所です。しかし、野生に返すのはとても大変なことです。動物園に来て、命そのものに心を動かしてもらいたい。動物園のアザラシと流水にのっているアザラシは同じなんです。野生の動物が絶滅の危機にあるというニュースを見たときに、関心を持ってもらいたい。それが動物園の役割だと思っています。

坂東 彼らを守るということは環境を守ることです。ホッキョクグマも、地球温暖化を防がないと絶滅してしまう。何十年後にホッキョクグマが生き残れば、私たちが環境を守れたということになると思います。

紙 動物園の果たす役割も大きいですね。

坂東 アムールヒョウは絶滅の危機にあります。野生のアムールヒョウはサハリン（樺太）やシベリアなどに二十頭から三十頭ぐらいしかいません。世界の動物園で三百頭ぐらいいますから、どうにか種の維持はできると思います。

紙 私は二〇〇四年にサハリンに行きました。環境破壊が問題になっており、私も野生動物のことを心配していました。